



Agilent Technologies
Innovating the HP Way

DC モジュール・コネクタ

スタンダード・コネクタ (P/N 5060-3386)
リレー・コネクタ (P/N 5060-3387)

取り付けガイド

概要

コードの接続は、それぞれモジュールのついたコネクタに行ないます。コネクタをメインフレームの後ろに取り付けることにより、コネクタ上の配線を乱すことなくモジュールの取り付け、および取り外しをすることができます。

コネクタには、ロードの接続の仕方により、ローカルまたはリモート電圧センシングに切り換えるスイッチがあります。

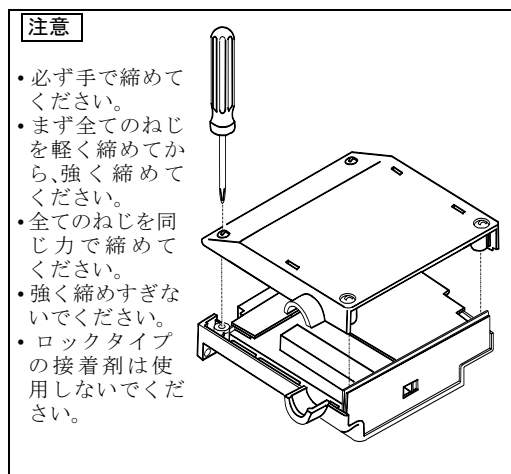
リレー・コネクタは、コネクタについている Relay ラベルのチェック・マークによって識別されます。リレー・コネクタには、ロードとセンスの取り外し、および極性反転リレーがあります。

コードの接続の仕方

コードの接続の仕方は、スタンダードおよびリレー・コネクタのどちらも同じです。

コネクタを開ける

四隅のねじ (M3 × 10mm) をはずし、コネクタを開けます。



ワイヤ接続用に 5 端末のバリヤ・ブロックがあります。バリヤ・ブロックのねじのサイズは、6-32×1/4 インチ (P/N2470-0001 と同じ) です。バリヤ・ブロックの端末は、以下のように食べる表示されています。

- +出力 +出力のロード・ワイヤの接続に使用
- 出力 -出力のロード・ワイヤの接続に使用

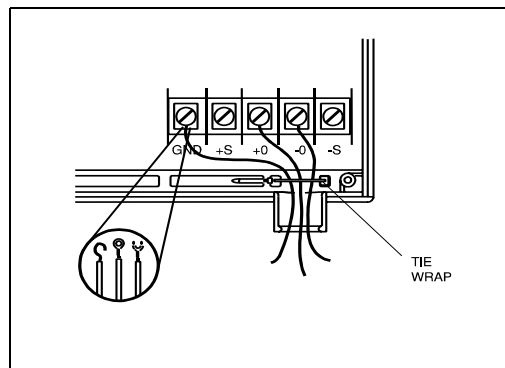
+ Sense +のリモート・センス・リード線の接続に使用。この接続を使用する場合、センス・スイッチを Remote にセットしてください。

- Sense -のリモート・センス・リード線の接続に使用。この接続を使用する場合、センス・スイッチを Remote にセットしてください。

GND シグナル・グラウンド (GND) の接続に使用。

ワイヤを接続する

バリヤ・ブロックのねじをはずし、ワイヤを接続します。バリヤ・ブロックにはスベードまたはリングの端末が使用できます。また、裸線も接続できます。ワイヤを端末に巻きつけ、端末のねじを締めます。



上図のように、ワイヤをコネクタの下方から引き込み、タイ・ラップを使ってワイヤをコネクタにしっかりと押さえます。

コネクタを閉じる

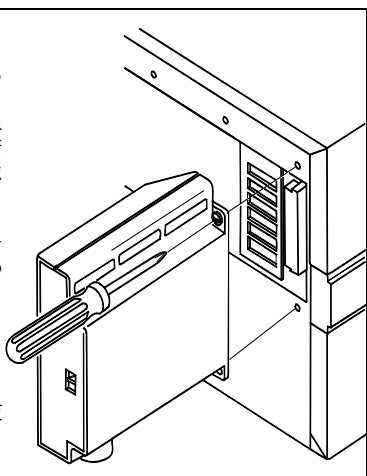
コネクタを閉じ、四隅のねじを締めます。図中の **注意** をよくお読みください。

コネクタをメインフレームに取り付ける

コネクタを、メインフレーム上のモジュールの後ろに適切なスロットの位置で取り付け、コネクタの 2 つのねじ (M3 × 10mm) を締めます。図中の **注意** をよくお読みください。

注意

- 必ず手で締めてください。
- まず全てのねじを軽く締めてから、強く締めてください。
- 全てのねじを同じ力で締めてください。
- 強く締めすぎないでください。
- ロックタイプの接着剤は使用しないでください。



センス・スイッチをセットする

コネクタにはそれぞれローカルおよびリモート・センス・スイッチがあります。リモート・センシングを使用している時以外は、センス・スイッチを必ず **Local** にしてください。リモート・センシングは、ロードで電圧センシングを直接必要とする場合に使用します。

スタンダード・コネクタにリレー・ボードを取り付ける

コネクタ内部のジャンパを切り、リレー・ボード (P/N5060-3351) を取り付けることにより、スタンダード・コネクタをリレー・コネクタとして使用することができます。

コネクタを開ける

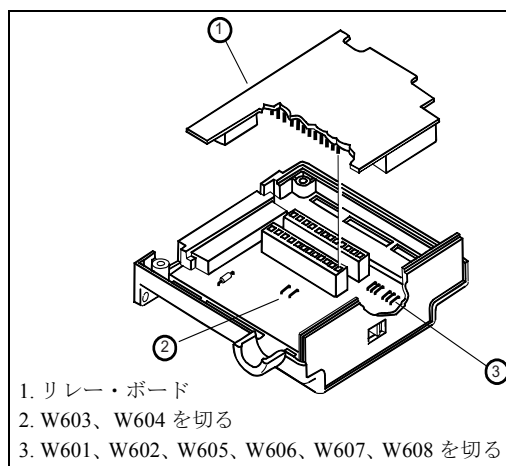
四隅のねじをはずし、コネクタを開けます (裏面の図を参照)。

コネクタ・ボードのジャンパを切る

斜線カッターを使ってコネクタ・ボードの8つのジャンパを切ります。リレー・ボードを取り付ける前にジャンパを切ってください。リレー・ボードは一度取り付けると、取り外しが難しくなります。

リレー・ボードを取り付ける

コネクタ・ボード上の J 602 と J603 コネクタにリレー・ボードを差し込みます。



コネクタを閉じる

コネクタを閉じ、四隅のねじを締めます。図中の **注意** をよくお読みください。

リレー・ボードを取り付けたことを示すため、コネクタ・ラベル上の **Relay** ボックスにチェック・マークを付けてください。